

ICM Logger データベース設定の同期

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[ロガーの同期](#)

[設定データのエクスポート](#)

[設定データの同期](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントとでは、Cisco Intelligent Contact Management (ICM) 環境で、あるロガーからそのペアのロガーへ、ロガー設定データを同期する方法について説明します。

前提条件

要件

Cisco ICM に関する基本的な知識があることが推奨されます。

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、Cisco ICM バージョン 4.6.2 以降に基づくものです。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

ロガーの同期

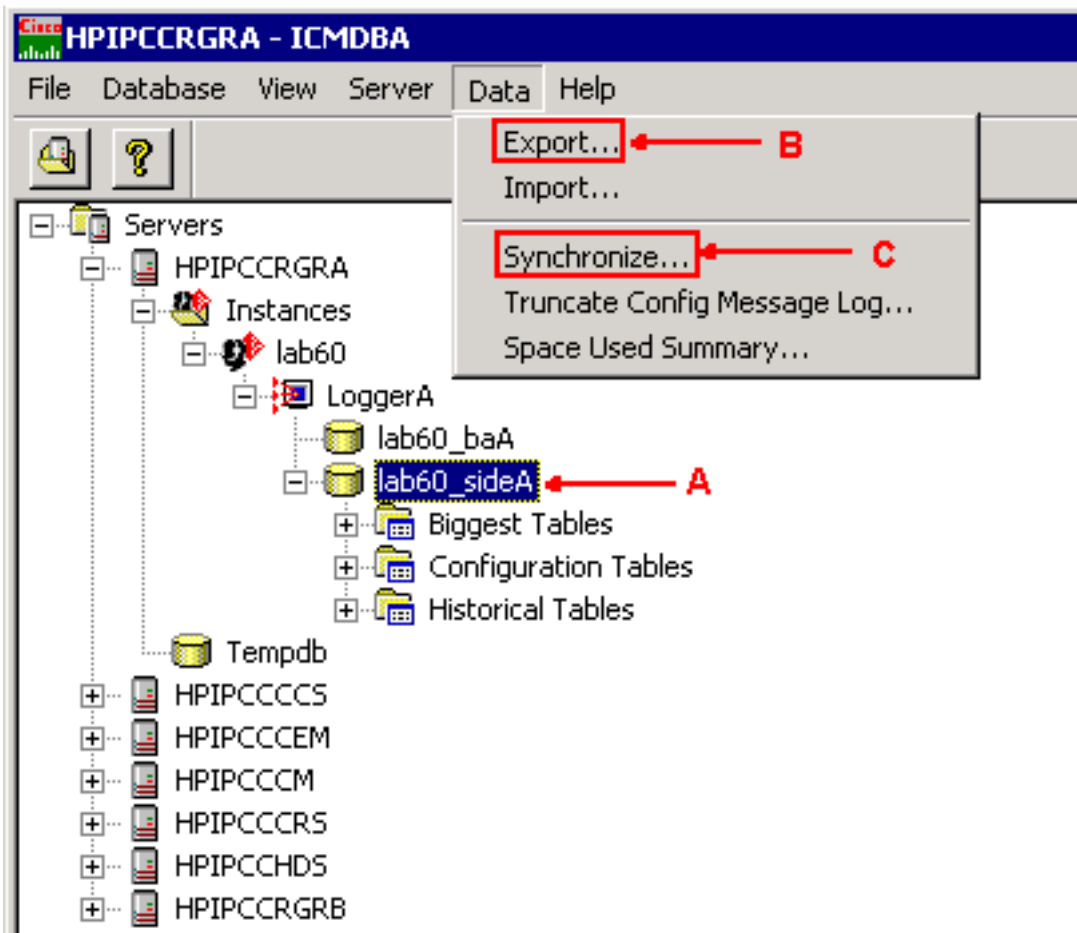
ロガー A とロガー B 間のロガー設定データを同期するには、次の手順を実行します。

1. ロガー A とロガー B 両方の設定データをエクスポートします。
2. ロガー A とロガー B 間のデータベースの設定データを同期します。

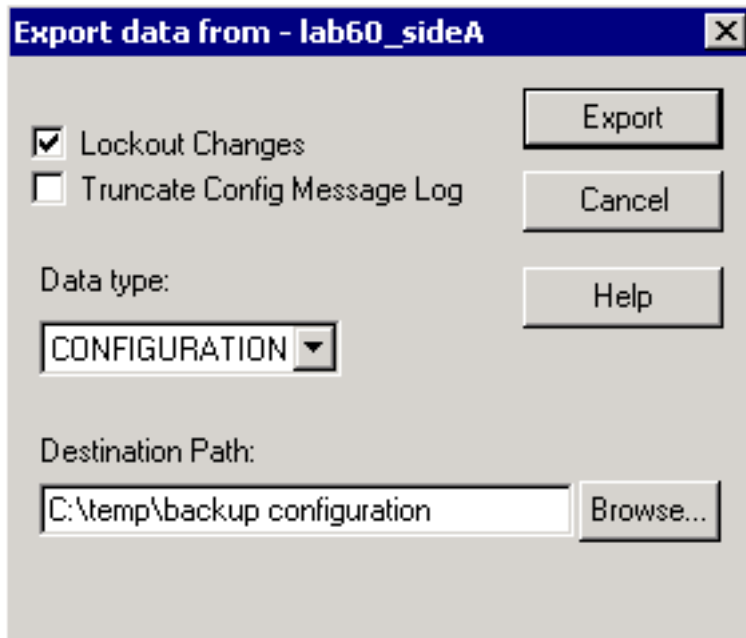
設定データのエクスポート

ロガー A とロガー B 両方の設定データをエクスポートするには、次の手順を実行します。

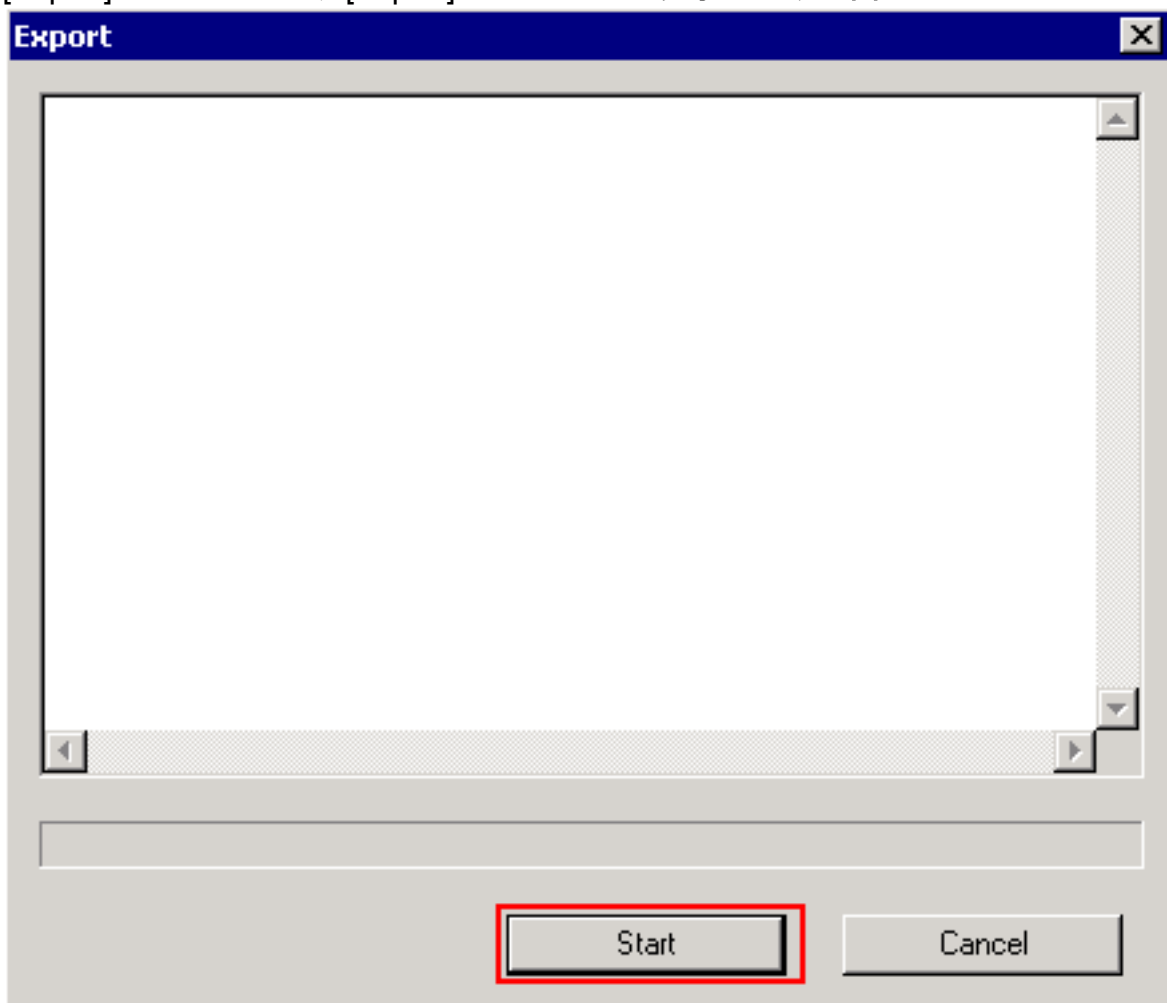
1. ロガー サービスを停止します。
2. ICMDBA を起動するには、[Start] > [Run] を選択し、ICMDBA と入力し、[OK] をクリックします。
3. サーバ、インスタンス、およびノードを指定するには、[図 1](#) の矢印 A で示すように、データベースを選択します。 [図 1 - ICMDBA](#)



4. [図 1](#) の矢印 B で示すように、メニューバーから [Data] > [Export...] を選択します。 [Export] ウィンドウが表示されます。 [図 2 - データのエクスポート](#)



5. [Data Type] ドロップダウン リストから [CONFIGURATION] を選択します。
6. [Browse] ボタンを使用して、データの宛先のパスを表示します。
7. エクスポート処理中にデータベースに変更が行われないよう、[Lockout Changes] チェックボックスをオンにします。
8. [Export] をクリックし、[Export] ウィンドウを表示します。 図 3 – エクスポート



9. 設定データをエクスポートするには、[Start] をクリックします。プロセスが完了すると、アクションが成功したことを示すメッセージが表示されます。完了するには、[OK] をクリックし、[Close] をクリックします。
10. ログ サービスを起動します。

設定データの同期

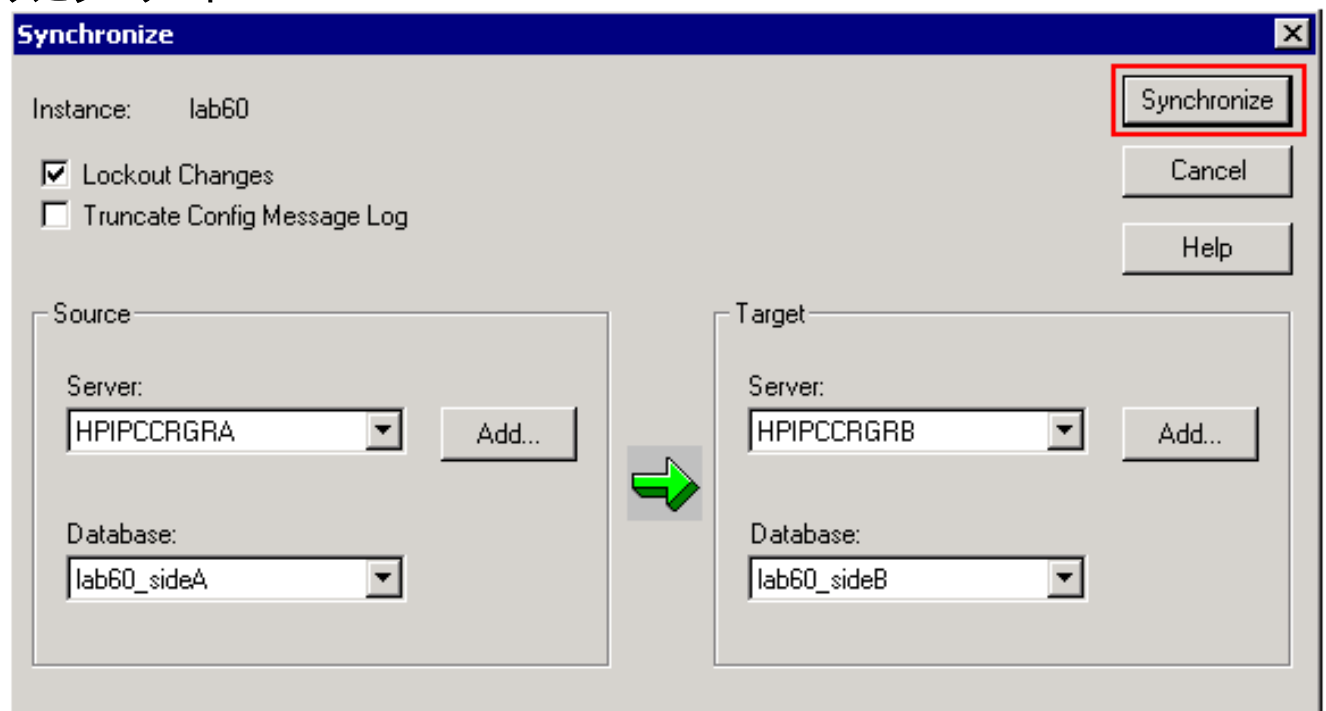
このプロセスは、ロガーからペアのロガーへ有効な設定データをコピーします。ロガー データベースを同期するには、次のいずれかのセクションの手順を実行します。

- [ロガー A からロガー B に設定データをコピーする](#)
- [ロガー B からロガー A に設定データをコピーする](#)

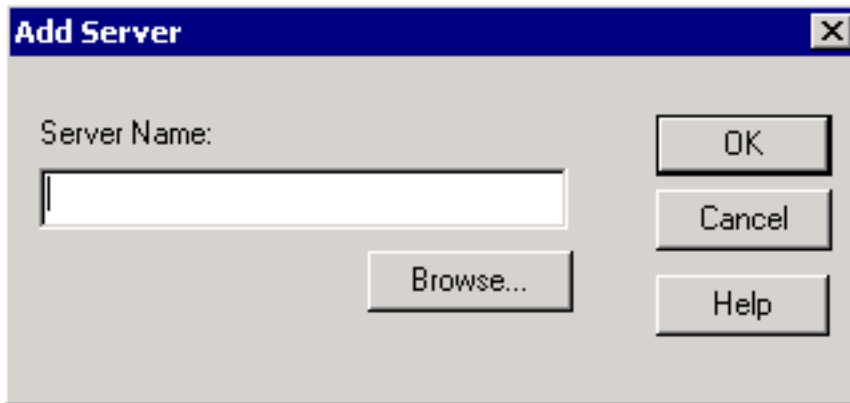
ロガー A からロガー B に設定データをコピーする

ロガー A の設定データが有効で、そのデータをロガー B にコピーするには、次の手順を実行してください。

1. ロガー B のロガー サービスを停止します。
2. ロガー A の ICMDBA を起動し、ロガー A からロガー B に設定データをコピーするには、次の手順を実行します。この場合、ロガー A がソースで、ロガー B がターゲットになります。サーバ、インスタンス、およびノードを指定するには、[図 1](#) の矢印 A で示すように、データベースを選択します。[図 2](#) の矢印 C で示すように、メニューから [Data] > [Synchronize] を選択します。[Synchronize] ウィンドウが表示されます。[図 4 - 同期 - ソースとターゲット](#)

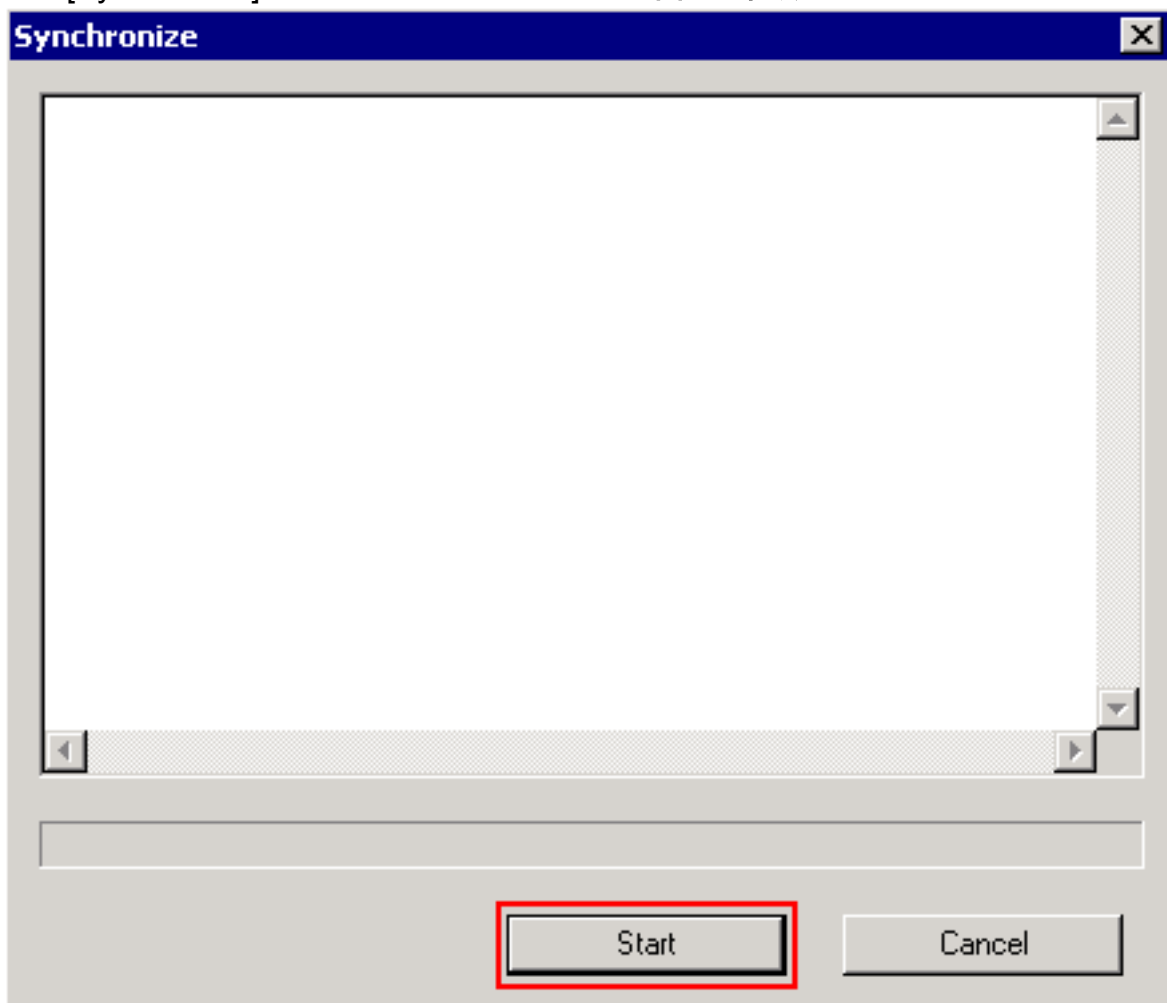


同期処理中にデータベースに変更が行われないよう、[Lockout Changes] チェックボックスをオンにします。ソースとターゲット両方のサーバ名とデータベースをドロップダウン リストから選択します。ドロップダウン リストに表示されなかったサーバを選択するには、[Add] をクリックし、[Add Server] ボックスにサーバ名を入力します。[図 5 - サーバの追加](#)



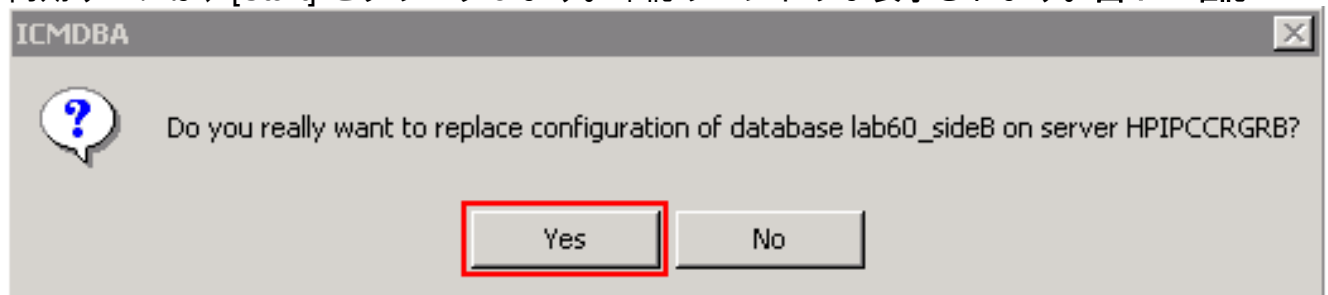
[Synchronize] をクリックしま

す。[Synchronize] ボックスが表示されます。図 6 - 同期



データを

同期するには、[Start] をクリックします。確認ウィンドウが表示されます。図 7 - 確認



設定データを置き換えるデータベース名と、データベースが存在するサーバ名を確認します。両方が正しければ、[Yes] をクリックして続行します。プロセスが完了すると、アクションが成功したことを示すメッセージが表示されます。完了するには、[OK] をクリックし、[Close] をクリックします。

3. ロガー B でロガー サービスを起動します。

[ロガー B からロガー A に設定データをコピーする](#)

ロガー B の設定データが有効で、そのデータをロガー A にコピーするには、次の手順を実行してください。

1. ロガー A のロガー サービスを停止します。
2. ロガー B の ICMDDBA を起動し、ロガー からロガー A に設定データをコピーするには、次の手順を実行します。この場合、ロガー B がソースで、ロガー A がターゲットになります。サーバ、インスタンス、およびノードを指定するためのデータベースを選択します。[図 2](#) の矢印 C で示すように、メニューから [Data] > [Synchronize] を選択します。[Synchronize] ウィンドウが表示されます ([図 4](#) を参照)。同期処理中にデータベースに変更が行われないよう、[Lockout Changes] チェックボックスをオンにします。ソースとターゲット両方のサーバ名とデータベースをドロップダウン リストから選択します。ドロップダウン リストに表示されなかったサーバを選択するには、[Add] をクリックし、[Add Server] ボックスにサーバ名を入力します。 ([図 5](#) を参照)。[Synchronize] をクリックします。[Synchronize] ボックスが表示されます ([図 6](#) を参照)。データを同期するには、[Start] をクリックします。確認ウィンドウが表示されます ([図 7](#) 参照)。設定データを置き換えるデータベース名と、データベースが存在するサーバ名を確認します。両方が正しければ、[Yes] をクリックして続行します。プロセスが完了すると、アクションが成功したことを示すメッセージが表示されます。完了するには、[OK] をクリックし、[Close] をクリックします。
3. ロガー A でロガー サービスを開始します。

[関連情報](#)

- [Cisco ICM Logger が同期できない理由](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)